

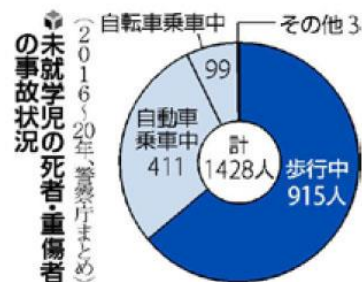


幼児事故 歩行中64%

昨年までの5年間に交通事故で死亡または重傷を負った未就学児（幼児）が1428人に上り、うち915人（64%）が歩行中だったことが警察庁のまとめでわかった。道路への飛び出しや、保護者がそばにいない「一人歩き」が目立った。同庁は「幼児は予想外の行動を取ることが多く、ドライバーは慎重な運転を心がけてほしい」としている。

警察庁によると、915人の歩行中の事故を時間帯別にみると、午後4～5時台が最多の264人。続いて同2～3時台178人、

死亡・重傷 5年で1428人



午前10～11時台122人、正午～午後1時台112人で、日中が大半だった。自宅近くで事故に遭う子どもが多く、386人（42%）は事故現場が自宅から100メートル以内だった。915人のうち851人について事故原因などを分

（2016～20年、警察庁まとめ）
未就学児の死者・重傷者の事故状況

析したところ、「飛び出し」が最多の280人（32%）で、「一人歩き」が185人（21%）、横断歩道ではない所を渡る「横断違反」が86人（10%）だった。一方、子ども側に違反はなかったケースも234人（27%）だった。

道路交通法は、交通量の多い道路やその付近で、保護者が13歳未満の子どもを遊ばせたり、6歳未満の幼児を一人で歩かせたりすることを禁じている。警察庁の担当者は「子どもから目を離さず、大事な命を守ってほしい」と話した。



放課後から夕方にかけての時間帯は小学生でも事故が多くなっています。遊びに行くときなどは十分気をつけましょう。

1 調査結果から、何時～何時台までの間が、歩行中の幼児が最も事故に遭いやすいと言えますか。

午前・午後のどちらかに○を付け、時刻を書きましょう。

（午前・**午後**）

4

時～

5

時台までの間

2 歩行中の事故のうち、子ども側に多い原因を多い順に並べました。（ ）に当てはまる言葉を記事の中からぬき出しましょう。

1: (**飛び出し**) 2: (**一人歩き**) 3: **横断違反**

事故の原因は子ども側にもあり、保護者には気をつける義務があります。また、自宅から100メートル以内の場所で事故にあう子どもが42%もいると知ると、気をつけようという気持ちになりますね。

交通量の多い道路やその近くで遊んだりすることも「違反」と記事にあります。

3 この記事を新聞に載せると、どのようなことを読む人に伝えられますか。

適切なものをすべて選び、番号で答えましょう。

③

④

- ① 多くの事故の原因は子どもの側にはないので、子どもの事故は防ぎようがないこと。
- ② 事故は主に歩行中に起きるので、子どもは必ず自動車や自転車で移動すべきだということ。
- ③ 子どもの事故を防ぐためには、保護者も気をつける責任があるということ。
- ④ 自宅近くでの事故も多く、慣れている場所だからといって安心しないようにすること。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

少しの注意 命を守る

交通事故

手を上げて横断歩道を渡る子供たち（東京都あきる野市で）



いつでも「止まる、見る、待つ」

夏だろ？がなんだろうが、小学生の大敵となっているのが、交通事故です。2019年は、小学生が800人も交通事故で大けがをし、21人が亡くなりました。道路の横断中や、自転車に乗っているときの事故が多いのが特徴です。

交通事故がやっかいなのは、自分が信号を守っていても安心できないことです。運転手が、急いでいたり、ぼーっとしていたりして、歩いて

いるみなさんに気がつかないことがあるのです。

というわけで、交通事故に遭わないためには、どんなときでも「止まる、見る、待つ」ことが大事です。たとえば、道路を渡るときは、飛び出さないで一度止まり、信号が青になっても左右を確かめてから渡るようにします。

自転車に乗るときも、注意が必要。スピードの出し過ぎや横並びで走ることをやめるだけで、事故率はぐっと低くなります。

（2020年7月23日 読売 KODOMO 新聞より）

車の運転手と歩行者、両方が気をつけないと交通事故は防げません。

「止まる、見る、待つ」を意識したいですね。





学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握（ア）	精査・解釈（ウ）
設 問	1	○	
	2	○	
	3		○